

「台風16号における大渡ダムの洪水調節効果」 の発表について（平成16年8月31日速報値）

大渡ダムでは8月30日の台風16号による洪水において洪水調節を実施し、仁淀川の水位を低下させることができました。

1. 洪水の規模

今回の洪水は大渡ダム管理開始(昭和62年)以来最大の流量を記録しました。

大渡ダム流域の累計雨量 410 mm

大渡ダム最大流入量 4,463 m³/s

大渡ダム最大放流量 3,155 m³/s

(1,308 m³/s 調節)

2. 洪水調節の効果（別紙参照）

今回の洪水における大渡ダムによる水位低下の効果は下記の通りです。

伊野地点（国道33号仁淀川橋上流） 0.6 m

越知地点（越知沈下橋上流） 1.0 m

上記の水位低下効果はダムによる洪水調節値が、各地点で低減したと推定した場合の値です。

問 い 合 わ せ 先

国土交通省 四国地方整備局大渡ダム管理所

管理所長 : 前中 良啓

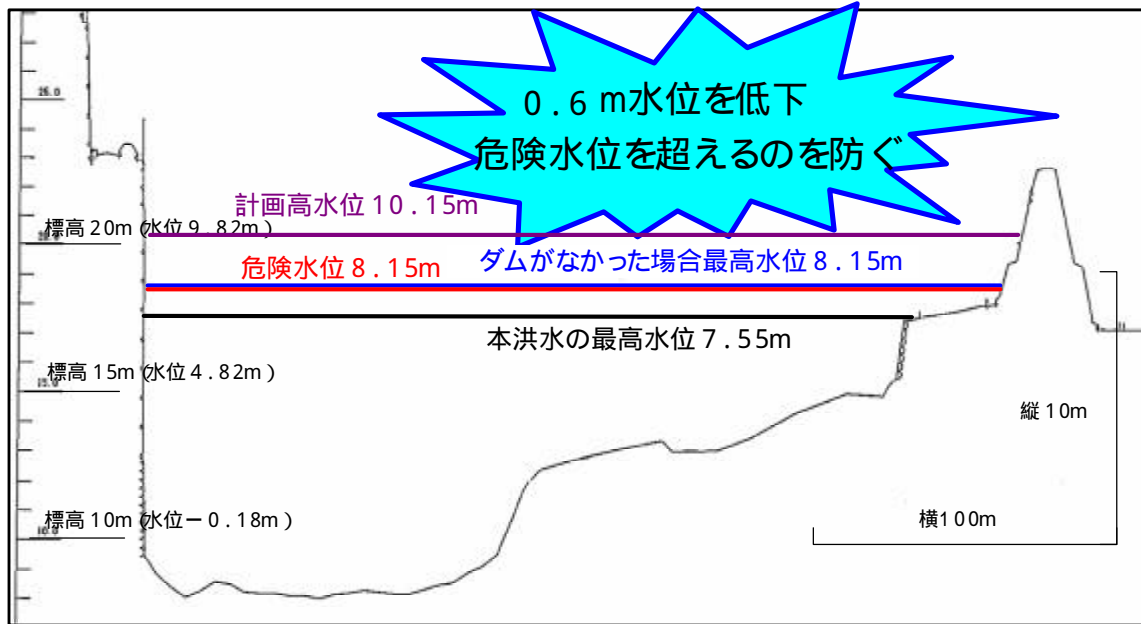
管理1係長 : 三浦 泰幹

TEL : 0889 (32) 2120 (代)

平成16年 8月30日出水における大渡ダムの洪水調節効果 (流出規模 : 大渡ダム最大流入量 4463m³/s)

伊野における大渡ダムの洪水調節効果

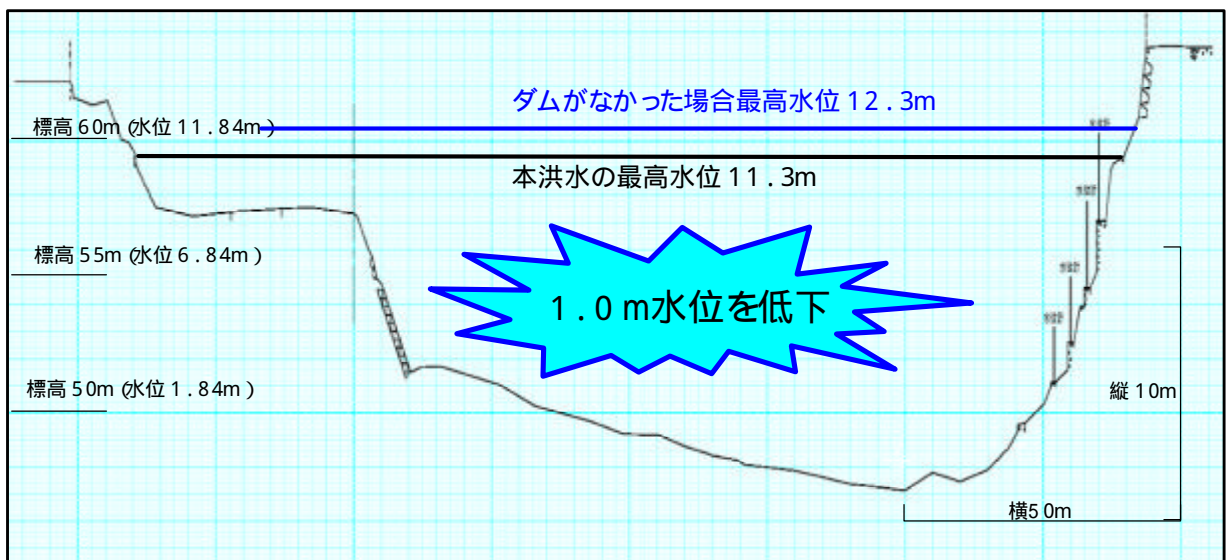
場所 伊野水位観測所 (国道33号仁淀川橋上流付近)



上記の水位低下効果はダムによる洪水調節値が、各地点で低減したと推定した場合の値です。

越知における大渡ダムの洪水調節効果

場所 越知水位観測所 (越知沈下橋上流)



上記の水位低下効果はダムによる洪水調節値が、各地点で低減したと推定した場合の値です。

大渡ダム洪水調節グラフ

